

学校業務改善活動事例集の概要(令和7年度 働き方改革支援アドバイザー派遣業務)

1. 事例集の作成について

熊本県教育委員会では、「熊本県の公立学校における働き方改革推進プラン(第2期)」に基づき、更なる業務の見直しや負担軽減の取組みを推進し、長時間勤務の是正を図っています。取組推進の一環として、働き方改革支援アドバイザーを学校現場に派遣し、業務改善に取り組んだ内容について事例紹介しています。

2. 業務改善の「6つの着眼点」

令和6年度に作成した「教職員のための学校業務改善ハンドブック」の『業務量』と『作業時間』のバランスを改善するための6つの着眼点に基づき、学校の業務改善活動を支援しました。

	6つの着眼点	見直しの方向性
業務量を減らすこと	①業務の校外移管	教職員が担わなくてもよい業務を学校外に移す
	②業務の廃止・簡素化	学校教育目標を判断基準として、業務をやめる・簡素化する
	③業務分担の見直し	校内の分担を工夫することで、一人当たりの負担を減らす
	④業務の効率化	少ない時間でできるようにする
作業時間を増やすこと	⑤時程の見直し	定時内の作業時間を増やす
時間の使い方を見直すこと	⑥意識・ワークスタイルの改善	時間を意識した働き方をする休息をとる

3. 学校ごとの主な取組事例

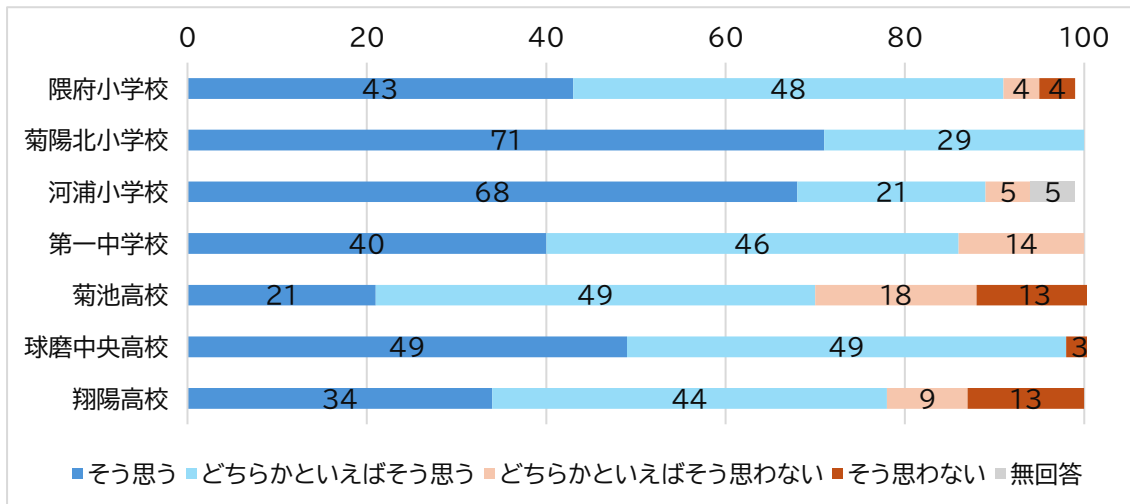
学校名	主な取組事例	取組と成果
隈府小学校 (菊池市)	会議運営の見直し	議題を事前に届け出る仕組みとし、また、会議の冒頭に目標終了時間を伝えるようにしたこと から、会議を効率的に進行することができ、予定の時間どおりに終了することができるようになった。 さらに、教員は会議終了後の40分程度を授業準備にあてられるようになった。
菊陽北小学校 (菊陽町)	週案の簡素化	学級だより(来週の時間割)を添付することを基本とし、特に考慮が必要ながあれば記載 する方式に変更。週案作成は必要以上に時間を割かないという意識変容につながっている。
河浦小学校 (天草市)	業績評価への「働き方改革の目標設定」	業績評価の項目の一つとして、各職員が実施する働き方改革の項目を設定。各職員が実行で きる範囲で、「働き方改革」に関わる行動目標を自ら立てることで、取組みを実践する素地と なっている。
第一中学校 (八代市)	教材データの共有	教材をデジタル化すると板書の時間が減り、生徒の活動時間が増えることにも役立つ。若い教 員には教材のストックが増え、授業準備の時間削減につながることが期待される。
菊池高校	折り返し電話への対応の効率化	電話対応マニュアルにおいて、折り返しの電話がある場合には事務室への事前連絡を徹底す るよう職員朝会で周知。併せて、伝言メモを教員の机の上に置く代わりに、チャットで連絡する方 法も活用。折り返しの電話がある場合の事務室への事前連絡の報告が徹底されるようになった。 チャットの活用と併せて、事務職員の業務が効率化した。
球磨中央高校	地域行事への参加の見直し	地域イベントへの出席依頼は生徒の成長につながるかどうかを判断軸に、優先順位を立てて 出席対応。生徒の意見も尊重しつつ、生徒のモチベーションが下がらないように留意している。 生徒や育友会からの新たな提案については、積極的に対応し、生徒や育友会の主体的な取組 みとなるようにサポート。参加機会を精選することで、生徒や教員の負担が軽減された。新た な取組みについて、教員の大きな負担が生じることなく対応できている。

翔陽高校	教員業務支援 員の活用促進	教員業務支援員と連携し、業務依頼の記録を取るようにした。それをもとに、「SSS通信」を作成し、依頼できる業務や依頼人数、新規人数などを周知。業務依頼用のフォームを作成し、いつでも・どこからでも依頼することができるようにした。 教員業務支援員への依頼件数が増加。依頼に慣れている教員は繰り返し利用しており、最初の一步を踏み出すことが大切だと感じている。
------	------------------	--

4. 取組の成果(教職員アンケートから)

あなたは、昨年度に比べて、時間外在校等時間(平日の放課後、土日)を減らそうという意識は高まりましたか。

(注) 比率は、小数点第1位を四捨五入し百分率(%)で表している。このため、合計が100%にならない場合もある。



5. 派遣校からのメッセージ(抜粋)

学校名	メッセージ
隈府小学校	今回の働き方改革の取組みの中で、職員一人一人が自らの姿を見つめ直す機会を持つことができました。これからも持続可能な「明日が楽しみな学校」を目指します。
菊陽北小学校	教職員・保護者・地域・行政が互いに支え合い、協力しながら、持続可能な学校運営ができること、そして well-being の向上につながる一人一人の生活のヒントとなれば幸いです。
河浦小学校	それぞれが現場で感じる課題や問いをもとに、主体的な提案を行う。その提案が学級や学校組織に、「より質の高い学びや校務をもたらす」効果を実感する。そのようなサイクルで一年間を過ごしました。
第一中学校	私たちは、やりがいと楽しさを感じられる職場づくりを目指し、チーム一丸となって今後も業務改善に取り組んでいきたいと考えています。
菊池高校	今後もこれまでの取組を継続しながら業務改善に努めるとともに、ワーク・ライフ・バランスを確立して働きやすい職場環境を整え、効率化により生まれた時間を生徒の学びに還元していきたい。
球磨中央高校	全職員が時間外在校等時間年平均45時間以内を達成し、職員がワーク・ライフ・バランスの実現やいきがい・やりがいをもって働ける環境を整え、生まれた時間を生徒の学びに還元していきたいと考えています。
翔陽高校	働き方改革は、一度整えて終わるものではなく、継続して見直しを続けることが重要です。互いの実践を共有し合い、無理なく続けられる仕組みをとともに育てていくことで、教職員が笑顔で働ける学校づくりが実現します。